

八宝会我ハ二日二夜中て落城家盛云より桶中の所
願六百貫文の内三百貫文を八柳等と其餘ハ戸使
堀田田口大沢松坂等小授く田口平治由小桶中
小五城す處し此彼所中て五百貫文願しより嘉
吉二年壽盛公十八年ハ秋のハ家盛云夢れ此ハ
老翁横嶽の言より尋り枕元小之哥

忘るふよ八十二うけてちすいゝを とりふ考

家盛云

それ行すゝをたれじ云れ葉

と附と見えて憂覺ふ事定て我命終らばとと思

嘉吉二年七月十七日八十歳中て卒す同年八月
十九日仁賀保を所攻り壽盛公所出馬と考秋
篠河内粟飯原喜三堀田三左門等又百餘騎
輕七百人麻の抱角れ馬下二陳戸は彦九郎傳
左門大沢敦貞田口平三郎是恒長柄三百人三陳
旗本これ光細田義濃鈴木左近松坂甲斐河田
次郎兵衛梅沢佐渡等式而騎三階朱傘の馬下
弓三百張長柄式而本大將軍壽盛公生年十
九歳容貌美麗眼重瞳あり歩行士三百人馬上
三百余騎殿永山淡路商將監隄河寺九郎太郎